



## ゆるやかな広がりをめざして 「芸」ボランティア

大塚 裕昌 (共西町)

『はあとぶらざ』というかわいらしい名前の施設が大府小学校南(以前どんぐり創房のあった所に)オープンしました。ボランティアの人たちのための作業スペースなどで100㎡ほどの広さがあります。また、4月11日には、ボランティアセンターの企画で、二ツ池の周りを手をつないで囲んでしまう「みんなで“わ”をつくらう」というイベントも行われました。大府のボランティアに、新しい風を感じたので、ボランティアセンターの杉田崇幸さんにいろいろお話を聞いてみました。

大府市のボランティアセンターは、福祉会館内にある社会福祉協議会に属していて、今年で創立26年目。当初は100人程度の集まりでしたが、平成12年の東海豪雨時には1、400人近くの被害ボランティアが参加したことから、急速に活動が広がっていったそうです。平成13年には、ボランティアのまとめ役として、専任のボランティアコーディネーターが配属されるようになりました。

(杉田さんは初代コーディネーターです)

現在、ボランティアセンターには31のグループが登録しています。登録者は1、206人ですが、そのうち180人はこのグループにも属さず、個人で、マジックによる施設訪問や、身障者の送迎などを行っています。また、登録者の多くは40〜60歳の女性と60歳以上の男性で、20歳の参加者が少ない状況です。今回、新しい作業スペースをできるだけ開放的にしたり、「みんなで“わ”をつくらう」を企画したのも、ボランティア活動について、より大勢の人に知ってもらいたい、親近感を持って参加してもらいたい……という考えからだそうです。昨年度のボランティアに関する問い合わせでは、ボランティア参加に関して134件、ボランティア利用に関して43件でした。意外と利用の問い合わせが少ないのは、ボランティアの存在に気づいていない人が多い、というのが理由かもしれません。

現代は、家庭の時間、仕事の時間に加え、社会と接する時間のあり方が問われています。特に地域社会との結びつきは、子育てや高齢者介護、治安や防災の面からも重要です。こうしたボランティアという形で、社会との接点を求めるやり方も選択肢の一つかもしれません。

今回の話の中でも、個人で登録できる点を面白く思いました。グループとしての制約を受けることなく、自分の楽しみの延長線上にボランティアという形があり、それを求めてくれる人たちがいる、こんなに楽しいことはないのかもしれないですね。現在、ボランティアセンターの個人登録にはマジック訪問や身障者送迎のほか、園芸指導、将棋の相手、遊びやパソコンの指導、話し相手なんというのがあります。特

別のことでなくても、自分ができること……ちょっとした芸を社会との接点としていくために、ボランティアセンターは手助けをしています。子どもも大人も年寄りも、一人ひとりがそれぞれの芸を持ち寄って、それぞれに利用し合う、そんな街の姿も楽しそうですよね。



### ボランティアセンター

☎(48)1805 FAX(46)9560

Eメール obu-fuku@ma.medias.ne.jp

HPアドレス <http://www.medias.ne.jp/~obu-fuku/>